

第3章

歴史的風致の維持および向上に関する
意義と基本方針

(1) 歴史的風致の維持および向上の意義

① 彦根の個性と魅力の向上

その都市のイメージ（都市ブランド）を評価する上で、都市の個性や魅力が重要な要素となっている。これは、これまでのようなスクラップアンドビルドの時代から、既存ストックを生かしたまちづくりが求められるようになり、都市の魅力が歴史の重層に育まれた中に見出されるようになってきた背景がある。

こうした状況の中、彦根では、歴史や伝統を反映した伝統産業、伝統行事および伝統芸能など人々の活動が現在も引き継がれており、歴史上価値の高い城郭や社寺とその周辺の市街地が一体となって、情緒や風情のある極めて良好な市街地の環境が今も維持されている。そこには、武家屋敷長屋門・足軽組屋敷・町屋などの歴史的建造物や、街道・河川・堀・石垣といった土木施設が現代の市街地に息づいている。



伝統行事(千代神社の春祭り)

このような彦根特有の市街地の環境が人々の活動の場となり、彦根の歴史と伝統を反映した固有の歴史的風致を形成してきた。歴史的建造物や歴史的なまちなみの保存、整備および活用を進めることは、彦根の個性と魅力がより一層高まることが期待できる。

② 伝統文化・伝統工芸の保存、継承、創造

彦根には、能・茶の湯などの伝統芸能が固有の文化となり、各種の祭事などを通じて現代に伝えられてきた。「彦根仏壇」に見られる伝統工芸も今に生きている。その活動の場は歴史を背景とした市街地



伝統産業(彦根仏壇の製造)

にあり、日々の生活のなかで生業を営みながら、世代を通じて引き継いできたものである。そのほか、伝統的な産業、伝統行事、建築、造園等に関する伝統的な技術の蓄積等がここで行われ、地域の新たな文化の掘り起こしや産業を創造する場ともなってきた。また、地域を訪れる人々が地域の歴史や伝統を体感でき、住民との交流を通じて彦根の魅力を発信していくことにもつながっている。

③ 観光・産業の振興

彦根は、琵琶湖をはじめとする豊かな自然の中で保存伝承されてきた歴史的建造物や史跡等が現代社会に溶け込み、人々の生活文化と一体となって地域に息づいてきた。それが彦根の魅力となり、彦根城を筆頭に多くの観光客を迎えるにいたっている。しかし、これら貴重な資源を有しながらも、大都市圏近郊という地理的条件や交通機能の発達を期待するなどにより道路網の整備が優先されることとなり、生活様式の変化から現代様式の住居に建て変わり、時とともに貴重な歴史的価値のあるまちなみが失われてきた。彦根の観光については、滞在時間が短いことの誘因に城下町の魅力不足が挙げられ、持続的な有効活用が見出せず、長期的な低迷は否めない。

しかし、こうした状況を打開するため、平成19年3月21日から11月25日までの250日間にわたって開催した「国宝・彦根城築城400年祭」は、当初予想を大きく上回る76万4,484人の来場者があり、期間中に彦根城を中心とする観光地域に来訪した観光客数は243万人に達した。また、観光消費による経済波及効果の面



観光の拠点彦根城跡(太鼓門櫓)

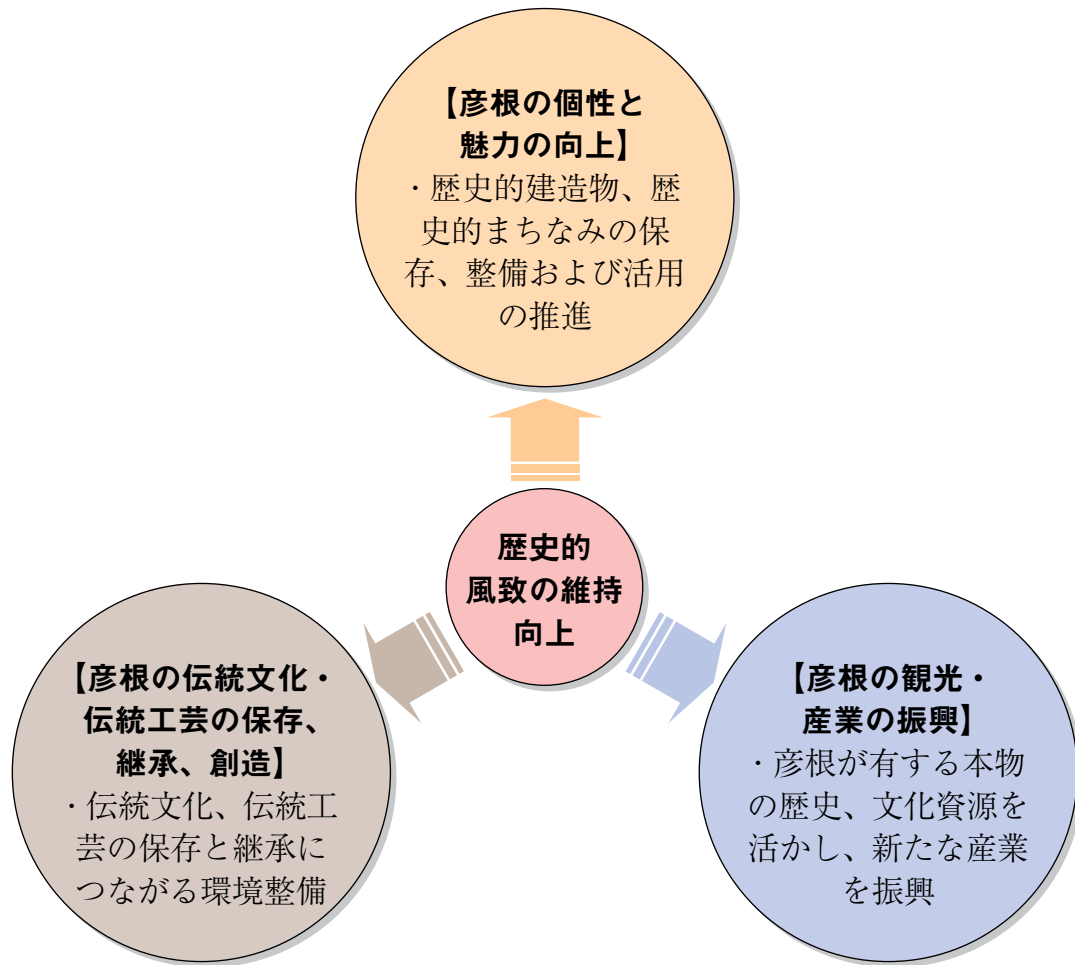
では、滋賀大学産業共同研究センターの推定によると、観光消費額174億円、波及効果の総額は338億円とされ、これは彦根市総生産の7パーセントに当たる。また、マスコットキャラクターの「ひこにゃん」による経済効果は17億円になるとされている。一方、雇用効果の面では、彦根市労働人口の5パーセントに当たる2,872人の効果を生み出し、地域経済を大きく牽引することとなった。このイベントに象徴されることは、本市の歴史や文化を反映した人々の活動など彦根ならではの風情、情緒、佇まいなど歴史的風致を生かした本物志向にあると考える。例えば、パビリオンなどの新たな施設は造らず、史

跡内にあるこれまで非公開の櫓も含めて、展示内容だけでなく建造物そのものの歴史的価値を見ていただくとともに、人々の文化的な活動に意義を置いたことにある。併せて、環境や景観に配慮したエコイベントの側面も持っている。また、表御殿を復原した彦根城博物館では、「百花繚乱—彦根歴史絵巻」の展開など、井伊家伝来の資料を公開するとともに、官民の主催による歴史講座では、県外各地からの多くの聴講者に対して多面的な史実の学習の場を提供し、歴史と文化に息づく彦根を広く発信した。本市にとって重要な視点は、この成果を今後の観光・産業にどう生かし、つなげていくかという点にあるが、歴史的風致の維持向上計画の推進は、その大きな推進力になるものである。

「国宝・彦根城築城 400 年祭」でのもうひとつの特筆すべき点は、市民力の創出である。イベントが契機となり、市民自らが歴史を掘り起こす機運を触発し、わが街の誇り得る歴史と資産を改めて認識する機会となった。引き続き開催した「井伊直弼と開国 150 年祭」では、幕末の歴史や井伊直弼の人物像を多面的に紹介する機会とするとともに、さらに市民力を発揮するステージと位置づけた。こうしたボランティア活動の高まりや NPO 組織の取り組みは、多くの観光客に対するホスピタリティにあふれ、これを継続的、自立的な活動につなげてきている。さらに、街なかの歴史的資源を新たな観光資源として焦点を当てることにより、歴史と時間が融合する「ひこね」独自の落ち着いた佇まいのなかで、伝統文化と暮らしが結びついた商店街や地域住民のもてなし、彦根仏壇に代表される地場産業の体験・交流など、まちそのものの魅力向上との相乗効果で、滞在時間をさらに延ばすとともに、外国人観光客には小江戸情緒の風情を提供することで、多くの来訪者が期待される。

彦根市は、近畿圏および中部圏、北陸圏を結ぶ広域交通の結節点であり、歴史的にも交通の要衝にあった。歴史的風致の維持向上を図ることにより、歴史拠点である彦根城跡の価値を高め、歴史文化資産の保存と活用により彦根の個性と魅力の向上が期待できる。さらに、街なかでの居住環境を促進し、彦根市の中心市街地にふさわしい市街地環境の向上にもつながる。また、魅力ある観光都市作りの推進にも貢献し、交流人口の増加と地場産業の振興につながり、地域経済の活性化が図れるものと考えられる。

歴史的風致の維持および向上の意義



(2) 歴史的風致の維持向上に関する課題

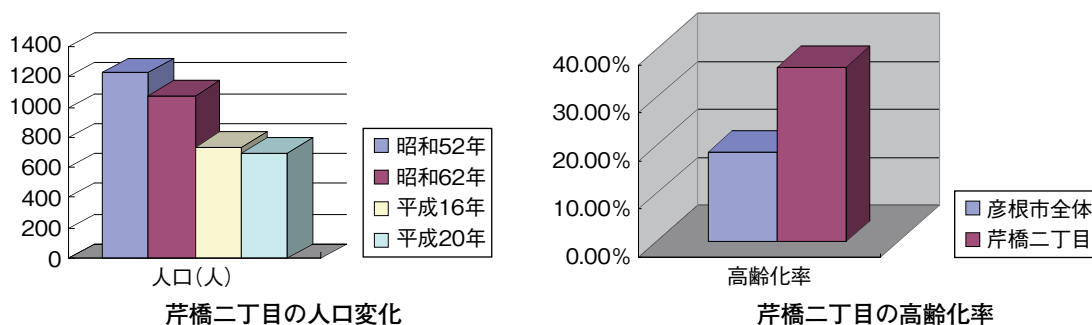
①人々の暮らしが息づく城下町の町割り保全に係る課題

彦根の城下町の風情や暮らしを色濃く残している地域に「善利組足軽屋敷」がある。現在の町名は芹橋一丁目および同二丁目であるが、江戸時代は足軽衆の組屋敷として城下町の最も外側に位置し、細街路に仕切られた屋敷が連なった都市構造がほぼ完全に残されている。道路幅員は一間半(2.7m)と狭く、要所に「どんつき」や「くいちがい」を配した城下町特有の備えは、落ち着いたまちなみと歴史観を漂わせ、地域住民の誇りにもなっている。



城下町の町割りが息づくまちなみ

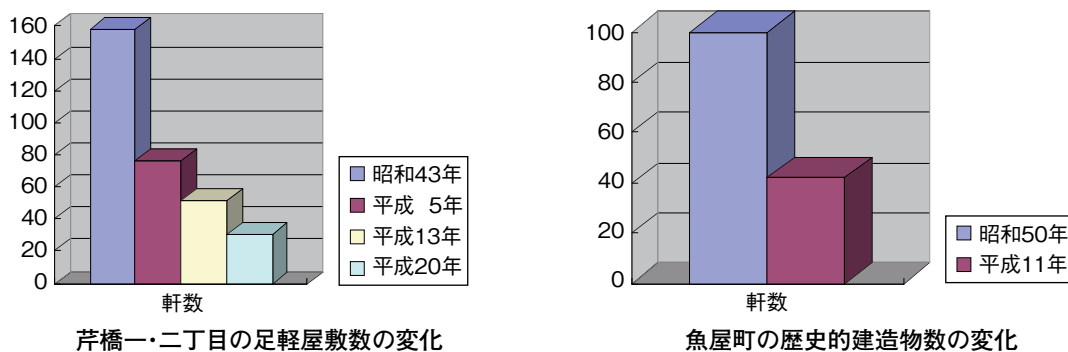
一方、このような車社会に適応し難いまちの構造は「住みよさ」から敬遠されることとなり、若者世代を中心に「まちばなれ」が進行しつつある現実がある。江戸期の足軽屋敷の建物も空家化や除却化が進み年々姿を消していく中で、数少なくなった足軽屋敷を実測調査し保存策と活用方法の検討が喫緊の課題となっている。



② 歴史的建造物の滅失および活用と管理に係る課題

歴史的風致を構成している重要な要素となる歴史的建造物は、その多くが一般民家であり、現代人の生活様式になじまないことから現代建築への建て替えが進んでいる。

上記の善利組足軽屋敷においても、江戸時代に700戸を数えた足軽屋敷が、平成11年(1999年)滋賀県立大学土屋教授の調査では、30戸余りが現存するのみであり、最近の調査ではさらに滅失が進んでいる。また、現存する歴史的建造物の中には無住となったものも少なくない。同様に、魚屋町の調査結果では、昭和50年に100戸を数えた歴史的建造物が平成11年には40戸余までに減少している。



彦根市では、景観計画の「城下町景観形成地域」指定により良好な景観形成の取組を進めているが、歴史的建造物の多くが個人所有であり、歴史的なまちなみの保存という地域ぐるみの対策について、思うような成果があげられていないのが現状である。今後、景観重要建造物や登録文化財などの積極的な

指定と良好な管理を進めるためには、地域が取り組むまちづくり計画の策定など地域住民の理解と協力が必要となる。また、保存修理を計画している建造物でも活用および管理の方策が決定していないものがあり、歴史的資産の価値を損なわないような活用の方策の検討が進んでいない。

③ 伝統的産業の担い手と後継者育成に係る課題

伝統工芸品である「和蠟燭」や「彦根仏壇」などは、職人の高齢化等による担い手不足が深刻な状況である。

特に、「彦根仏壇」は、七曲り仏壇街で営々と受け継がれてきており、彦根の歴史的風致を構成する代表となる地区であることから、貴重な地場の産業として継承への手立てが求められている。近年は、まちの随所に「空き地」が散見できるようになり、歴史的建造物である建物の滅失が進む中で、後継者不足による「彦根仏壇」の継承も深刻な課題となっている。現在の彦根仏壇組合の組合員数は70余名であり、年々その数を減らしている現状を改善する施策が望まれている。

(3) 歴史的風致の維持および向上に関する基本方針

地域固有の歴史的風致が形成されている地域は、歴史的な情緒、風情、たたずまいをその地域全体に醸し出している。このような市街地の環境は、住民等が生活や生業を営む上で無形の価値を生み出し、ライフスタイルに応じた安心の住まいを実現する舞台となる。また、地域を訪れる人々が地域の歴史や伝統を体感し、参加・学習する場となり、その地域の魅力につながっている。地域固有の歴史的風致は、その地域を評価する上でも大きな価値を持っている。このため、消失が進みつつある歴史的建造物を保存し、適正な管理と活用を図ることとする。

歴史的風致を構成する要素である文化財は、長い歴史の中で培ってきた「知」と「技」を内包している。こうした文化財を守り伝えることは、「知」と「技」を継承し、日々の暮らしをより豊かにすることでもある。彦根市では、平成19年度に設立した「彦根市文化財基金」を利用し、文化財の保存修理を進めていこうとしている。

彦根市総合発展計画では、歴史的風致を維持向上するため歴史まちづくりの推進に努め、市民の誇りとなるまちの実現を目指すとともに、歴史的資源の保存と活用においては、地域の育まれた歴史的環境に応じた整備を進め良好な形で後世に伝承することとしている。

以上により、彦根市の歴史的風致を今後とも維持し向上を図るために、以下のような基本方針を定める。

基本方針1

彦根固有の歴史や風土に根付き、世代をつなぎ人々により
 伝承されてきた祭礼、伝統行事、伝統芸能および彦根仏壇
 などの伝統工芸・伝統技術などを将来へ確実に継承し、
 もって地域の文化および産業の振興を図る。



◇実現のための方策

- ・ 歴史的風致を構成する地域の祭礼、伝統行事、伝統芸能などの調査を行うとともに、これらの母体となる活動組織の育成・強化を図る。
- ・ 学校教育や生涯学習との連携を強め、能・狂言や茶の湯、仏壇工芸・湖東焼などに彦根に根付いた伝統芸能・伝統工芸を楽しく学ぶ機会を作り、もって後継者育成の環境づくりを進める。

基本方針2

彦根の歴史と伝統を継承している文化財や歴史的なまちなみなど歴史的景観を積極的に保存し、これらを活用した
 風情、情緒、たたずまいを有する市街地環境の整備および
 生活環境の改善を図り、もって都市の健全な発展を図る。



◇実現のための方策

- ・ 歴史的風致を構成する歴史的建造物の調査を進め、データベース化を図るとともに、歴史的建造物の持つ価値を市民と行政が共有できる機会を設ける。
- ・ 調査結果に基づき、特に価値の高い建造物等は文化財の指定を行い、確実に保存と管理ができるようにする。
- ・ 調査の結果、文化財の指定にいたらない歴史的建造物や歴史的なまちなみについては、歴史的景観が保全できるよう都市計画法、景観法、屋外広告物法による「地域まちづくり計画」の策定を行う。
 良好な歴史的景観が形成される地域は、歴史的建造物や歴史的なまちなみの外観保存に向けた景観重要建造物・景観重要樹木の指定を行う。
- ・ 歴史を偲ばせる旧外堀の名残を残す場所にあっては、親水空間の整備を行う。

基本方針3

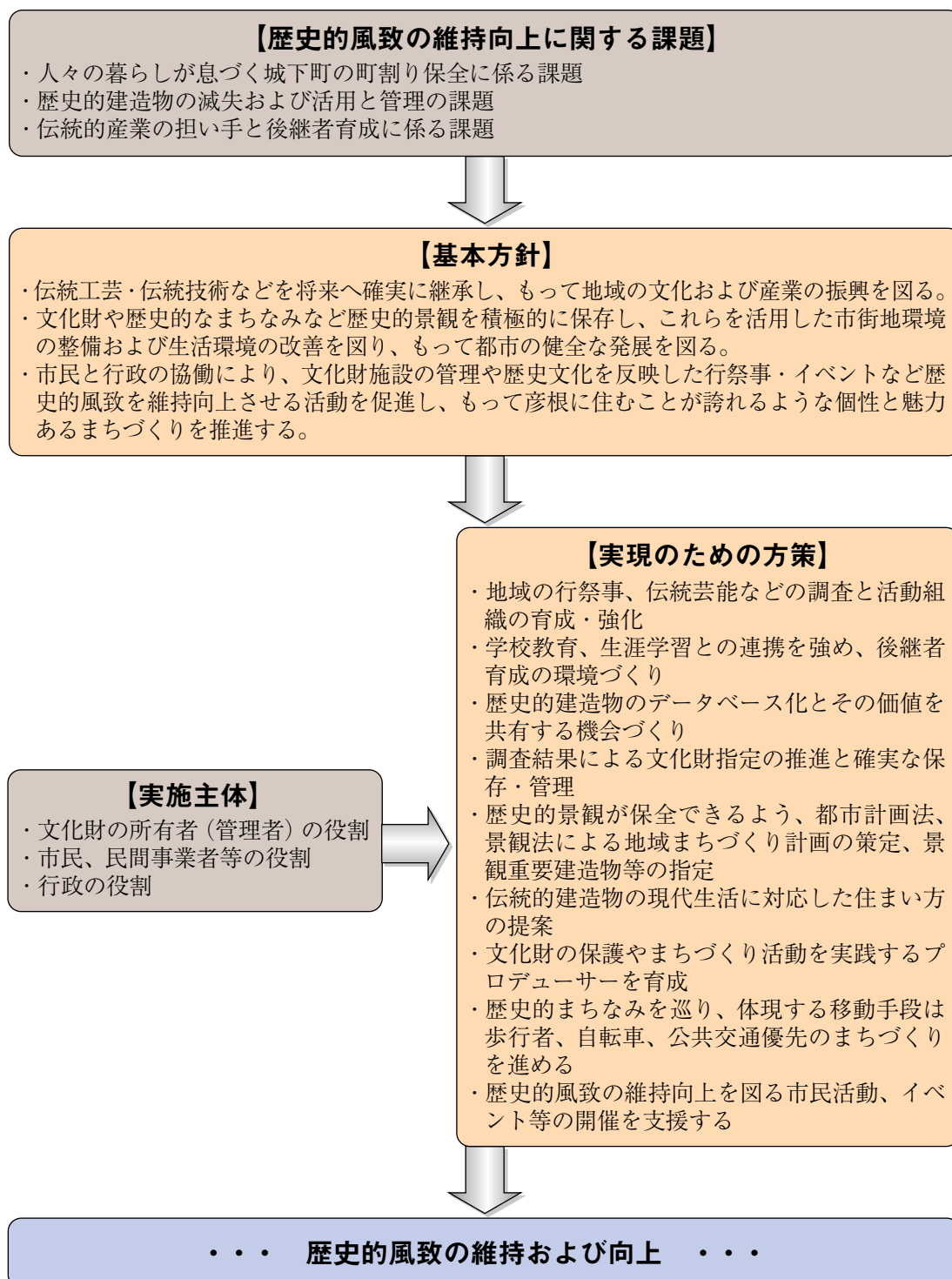
市民と行政の協働により、文化財施設の管理や歴史文化を反映した行祭事・イベントなど歴史的風致を維持し向上させるための活動を促進し、もって、彦根に住むことが誇れるような個性と魅力あるまちづくりを推進する。



◇実現のための方策

- ・ 大学・NPO法人・建築業界との連携協力により伝統的建造物の現代生活に対応した住まい方を提案する。
- ・ 地域住民や大学・NPO法人・企業など民間団体との連携協力を図り、文化財の保護やまちづくり活動を実践するプロデューサーを育成し、「地域の文化財は地域住民が守る」「地域のまちづくりは地域住民から」という地域活動母体の育成を図り、その活動を支援する。
- ・ 歴史的なまちなみをめぐり文化を体現する移動手段については、歩行者・自転車・公共交通優先のまちづくりを進める。特に歴史的風致を有する区域は道路景観等の整備など必要な事業を行う。また、マイカー利用を抑制し公共交通の利便性を向上させるため、パークアンドバイクライドの促進を図り、そのための環境整備を進める。
- ・ 歴史的風致の維持および向上を図る市民活動やイベント等の開催について支援する。

歴史的風致の維持向上フロー



(4) 推進体制

歴史的風致の維持および向上に関して、その中核をなす文化財等の所有者または管理者等は、自らの所有する文化財等が本市の歴史的風致を構成する重要な資産であることを強く認識し、その適切な保全および維持管理に努めるとともに、一般公開等による積極的な活用が求められる。

また、歴史的風致の要素である伝統文化や伝統産業においては、市民および民間事業者等が多様な活動を通し、彦根の歴史的風致の維持向上の担い手であることを認識し、積極的な取組を行うことが求められる。

行政は、歴史遺産を核としたまちづくりを念頭に、各資産の歴史的特性等に基づく復原整備、まちなみや沿道の修景事業等を推進し、歴史的風致の向上に努める。また、各種の啓発事業により歴史文化の息づくまちづくりの醸成に努め、市民や事業者と行政の協働による歴史的風致の維持向上の推進体制を確立する。

まちづくりの定義

市民が主導の歴史まちづくり活動

地域住民が共同し

行政との協働により

自らが住み、生活している場を

地域の特徴に合った住みよい魅力あるものにしていく活動

(5) 歴史的風致の維持および向上の推進における庁内体制

彦根市は、法第5条の規定により、彦根市歴史的風致維持向上計画の策定を円滑に推進するため、庁内の関係する部署の職員で構成する「彦根市歴史的風致維持向上計画策定庁内調整会議」を平成20年7月に設置した。ここでは、法定協議会で審議するための計画案を作成することを目的とし、これまでの所掌事務を横断的かつ多方面からの検討が可能となるよう、企画、産業、都市建設、文化財、および総務の各部の職員を中心に組織したものである。

また、法第11条で規定する「彦根市歴史的風致維持向上協議会」を設置し、上記庁内調整会議からの計画案について庁外各層からの意見を求めるとともに、彦根市意見公募手続き要綱に則り広く市民から意見を求め、市民の意見が反映できるように努める。

彦根市の庁内体制

